

# 特集：新春対談 市長×地域おこし協力隊



## 地域おこし協力隊とは…？

人口減少などの進行が著しい地方において、都心に住む若者や地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定着を図ることで、地域力の維持・強化を図る制度です。

石岡市は、令和4年4月に1名、令和5年9月に2名へ協力隊員を委嘱しており、現在3名の隊員がそれぞれのテーマにおいて、活動を行っています。

## 大澤泰子さん



Osawa Yasuko

### 「茅葺き民家の保全活動・ 循環型の里山農業の実践」

茅葺き民家に使われた古い茅をたい肥として活用できないか、いちご栽培で実証実験中。

## 佐川元太さん



Sagawa Genta

### 「茅葺き技術の習得と情報発信」

茅葺き屋根の技術の素晴らしさときれいな風景を市内外へ情報発信。

## 小原百恵さん



Obara Moe

### 「環境教育プログラムの開発と情報発信」

「水」を中心に「暮らし」にも焦点を当てた環境教育プログラムを開発中。また、SNSなどを活用した市の魅力発信を計画中。



市長 石岡市長の谷島です。地域おこし協力隊の皆さんには、日頃から地域のために熱心に活動を展開していただきまして、大変感謝しております。本日は新春対談ということで、率直にお話しただけだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



### 就任から現在までの活動内容

大澤 私は、令和4年4月に「茅葺民家の保全に係るコーディネート分野」の地域おこし協力隊として就任しました。現在活動を始めて2年目となります。1年目は屋根の修繕補助や茅刈り作業を通して、茅葺きの建物について学び、放置竹林で屋根の材料を収集しました。また、石岡市の茅葺き建築の現状調査を筑波大学と共同で行い、調査を通して地域の方との交流が広がりました。2年目の現在は、茅葺き屋根

の修繕時に出た廃棄茅や放置竹林の竹で竹炭を作ったり、処分に困ったもみ殻などを活用して、いちご栽培に有効活用できるかどうか実験を行っています。

市長 新たな視点で活動を行っている様子が伺えますね。今後も楽しみにしています。同じ茅葺き分野ということで、佐川さんはいかがでしょう。

佐川 令和5年9月から、常陸風土記の丘を拠点として、茅葺き屋根の技術習得とSNSを活用した情報発信を行っています。現場では、茅ごしらえから縄での縛り方、施工の方法、地走りなどの基本的なことを教えていただいています。また、SNSを使った情報発信に関しては、その日の現場で感じたことや学んだこと、進捗状況などを見ていただいている皆さんに少しでも興味を持ってもらえるように掲載しています。

市長 活動期間は3か月少々ですが、既に職人のようなですね。同じ時期に就任された小原さんは、どんな活動をされていますでしょうか。

小原 大きく分けると三点あります。一点目は地下水の研究です。地域の方の協力のもと、採水を行い、地図と照らし合わせながら、水がどこから来ているのか研究を重ねています。「水」という視点から八郷の自然の魅

力を伝え、この自然を維持していくために、どんな行動をしなければならぬのか、活動の提案をしていきたいと考えています。二点目は自然体験プログラム「八郷留学」です。スタッフとして活動を行う中で、八郷での自然に囲まれた「田舎暮らし」が生きる力を育てる教育になっていると実感しています。三点目は情報発信の準備です。地域おこし協力隊のInstagramや地域の人に向けての新聞発行、移住情報サイト「MIPPE」での発信に向けて準備をしているところです。市外の人には移住した後の暮らしがイメージできるような発信を、また地元の人に向けては、地域を誇りに思ってもらえるような発信を心掛けたいと思っています。



市長 小原さんも環境教育だけでなく、その情報発信が重要とのことですね。

### 石岡市の協力隊になることを選んだ理由

大澤 年齢を重ねるうちに、都会より生まれ育った自分のふるさと「石岡」がすごく良い場所だと感じ始めました。幼い頃、茅葺きの家に住んでいた経験から、茅葺きになじみがあったことも、協力隊としてこの分野を選んだひとつのきっかけです。活動を通して生まれ育った石岡市に恩返しができると思います、協力隊を選択しました。



市長 Uターン移住という点では佐川さんも同じ状況ですね。

佐川 そうですね。茅葺き分野の隊員募集を知り、全くやったことのない職種で不安はありましたが、調べていくうちにやってみたいという気持ちが強くなりました。

市長 Uターン移住で茅葺き職人になろうと思いついたことについて、周囲の人は、とても驚いたことだろうと思います。

小原さんはいかがでしょう。

小原 八郷地区の自然や人と出会い、魅力にどんどん引き込まれていったことが協力隊応募のきっかけです。田舎暮らしの知恵を教えてもらい、自分も何か与えられるようになりたい、石岡市のために何かしたいと思い、協力隊になりました。

市長 小原さんはUターンではありませんが、3人とも、もともと石岡という場所に何かしらの関わりがある中で、協力隊という道を選んだということですね。ありがとうございます。

### 石岡市に移住して感じたこと

大澤 協力隊として石岡市で生活している中で、獣害による作物への被害や耕作放棄地、空き家などが目立っているように感じました。また、果樹園などの農作物生産者の高齢化により、閉園してしまう農家も多くなっているように感じます。

佐川 職人として技術を習得する中で、接している人の良さ、環境の良さを感じることができました。自然豊かな環境は、地域の誇りのひとつだと思います。また、自分の出身地である石

岡駅前の中心市街地は、官民間問わず、イベントなども少しずつ増えてきており、昔より活気づいてきたのではないかと考えます。これからそういったイベントなどにも、協力隊として関わる機会があることに期待したいです。



小原 移住前は山や川といった自分の生まれ故郷にはない自然に憧れがあったため、あまり気にならなかったのですが、住んでみると、所々に設置されている太陽光パネルが気になりました。太陽光パネルは、クリーンエネルギーを生み出しますが、山や田園風景の中に乱立しているのを見ると、どうしても目に入ってしまう。

市長 実際に住んでみると気になる部分が見えてきたり、良いところも悪いところも、思うことはたくさんありますね。

### 対談場所

#### 「常陸風土記の丘」とは？

▶今回の新春対談は、常陸風土記の丘のご協力のもと、園内にある茅葺き屋根が象徴的な「曲屋」で対談を行いました。地域おこし協力隊員佐川元太さんの活動拠点ともなっている常陸風土記の丘。石岡市内では桜の名所でもあり、日本一大きな獅子頭があることで有名です。



#### 【お食事処「曲屋」】

普段は「常陸秋そば」を楽しむことができます。おすすめメニュー「つくば鶏塩そば」をぜひチェックしてみてください！

詳しくは常陸風土記の丘公式ホームページから▶





## 地域おこし協力隊の活動を通して感じたこと

市長 色々な人と接していると、大変なことや嬉しかったこと、様々あると思います。そういったことについて、ぜひお話しいただければと思います。大澤 調査を始めたときは、こんなにたくさん茅葺き民家があると思っていなかったのが驚きました。建物維持に苦しんでいる人たちの現状を目にすると、力になりたいと強く思うようになりました。補助金などの制度をお話ししたところ、維持の方向で検討していただける方もいらっしゃいました。



市長 今のお話は協力隊として成果を成し遂げてきているなど感じました。素晴らしいと思います。

佐川さんはいかがですか。

佐川 嬉しかったことは、現場見学やお手伝いに来た方が初めて見る茅の作業に感動されたことです。実際にやってみて楽しそうにしている人を目にすると、やり始めたばかりの身です

が、嬉しくなります。苦労したことは、どうしても外作業が多いため、暑さ寒さに体を慣らすことに時間がかかりました。

市長 今年は特に暑かったので、自然相手の作業は本当に大変だったと思います。お疲れ様でした。

小原さんはいかがでしょうか。

小原 私は「協力隊」という名前の使い方に悩むことがあります。協力隊だからできる活動もありますが、協力隊だから地元の人に壁を作られてしまう場合があります。協力隊に無関心な人もいれば、関心はあるけど部外者として認識している人、頑張ってるけど応援してくれる人など「協力隊」という言葉の受け取り方は千差万別です。それぞれの反響に怖くなり、進んで戻っての繰り返しですが、それでも進んでいかなくはない責任を感じています。同時に、自分で作り上げていくことの楽しさも知り、石岡でやってみたいことが増えていくのが面白いです。地域の人たちとの交流は難しい部分もありますが、これからは暮らしの延長線上で、地元の人との関わりを増やしていきたいと思っています。

市長 協力隊としての重責の中にも、生活の楽しさがあったということですね。地域での生活の感想もお聞かせいただけます。ありがとうございます。

## 協力隊になって一番印象に残っていること

大澤 茅葺き民家の調査や相談を受けて、前隊員の牧田さんと茅葺き民家の修繕の仕事ができたことです。隊員2人で今後の茅葺き維持に関する課題を話し合うことができたため、貴重な時間だったと思います。茅葺き民家の修繕作業の際に発生する大量の廃棄茅処分が手間がかかることから、今年度の活動のヒントも生まれました。



佐川 私は現場で修繕を行っていた家の屋根から、桐の木が生えている光景を目にしました。茅なので植物が育ちやすいのですが、自然から生み出される生命を目にすることは初めてだったため、この先も一生忘れられないと思います。

市長 今まで見たことのない光景を目にしたことが一番印象に残っていると聞いています。

小原さん、いかがでしょうか。

小原 住んでいる地区の清掃活動に参加したことです。そこで初めて地域の人たちと深いお話ができました。「協力隊」という存在を知っている人は多いですが、何をしているのか分からないといった、地元の人を持つ「不信感」がどのようなものかが分かりました。何をしているのかを情報開示し、地元の人に向けて、移住者だからこそ感じる地域の良さを伝えていきたいと思いました。

市長 市外だけではなく、共に暮らす地域の方々にも再認識していただけるような発信をぜひ、お願いします。

## 地域おこし協力隊になって変わったこと

大澤 石岡市の抱えている問題を考えて、訪れた場所や景観などを目にして、石岡市の良い所としてアピールしていった方がいいのではと常に意識するようになりました。

佐川 怪我と隣り合わせの仕事なので、寝不足などを避けるようになったこともあり、規則正しい生活を送るようになりました。また、修繕の現場では、生育中の植物などを臨機応変に使用する施工を体験したことから、今まで以上に物を大切に使用したり、適切な修繕方法を考える柔軟な考えを養うようになりました。

市長 物を活かすという茅葺き職人の目線から心境の変化があったということですね。小原さん、どうでしょうか。小原 自分の取り組みがどのように地域に繋がるかを考える視点ができました。「水を中心とした環境教育」という自己提案型テーマのもと、目に見える成果は挙げづらいですが、頭にあるアイデアをどうやって形にしていけるかを考えるようになりました。

市長 ありがとうございます。今後の活動へのつながりに期待しています。

### 今後の抱負

市長 最後に今後の抱負を一人ずつお願いします。

大澤 今年度は、茅葺き屋根の修繕で出た廃棄茅や放置竹林の竹を使った竹炭、処分に困っていたもみ殻を燻炭にして有効活用できるかどうかの実験に取り組んでいました。3年目の最終年度は、地域の人に今年度実験して作った物を使ってもらおうと考えています。石岡市は農業従事者も多いため、使用してもらうことで、茅葺き民家の現状や放置竹林などの問題にも関心を持ってもらえたらと思います。循環型農業において活用することで、景観をどう維持していくかを考えるきっかけになってほしいです。引き続き、地域の方々のお手伝いをしながら、石岡市

での生活のヒントを見つけたいと思っています。

佐川 石岡市が誇れる伝統ある茅葺き屋根の技術習得を一番に考え、職人として認めてもらえるように活動をしていき、それを通じて大勢の人に魅力を感じていただける情報発信をしていきたいです。できることはまだ少ないですが、自身が成長していく過程や風景を見ていただくことにより、人の温かさや環境の素晴らしさを感じてもらい、石岡市に住みたい、または帰りたいと思ってもらえるような活動をしていきたいです。



小原 私は石岡市八郷地区が好きです。しかし好きになれたのは、先人たちが自然や文化を守ってきたからだと思います。その誇りある地域を今後も維持していくためには、地域に誇りを持った人を増やすことが必要であると考えます。水という視点から石岡の魅力を発信し、石岡での暮らし方を生き方を環境教育として、次の世代に

伝える必要があると考えています。やりたいこと、アイデアは頭の中にたくさんありますが、今の私にできることは少なく、そんな自分のふがいなさを感じることもあります。しかし、時間をかけないと良いものではないと感じています。協力隊としての大きなゴールは、地元の人、移住した人、若男女問わず地域に関わる人が「こっついいところだ!」と言えるようになることだと思っています。協力隊の活動を通して、「この地域が好きだ」という人を増やしていきたいと思えます。

市長 皆さま、本日は対談にご参加いただきまして、ありがとうございます。協力隊三人全員 ありがとうございます。

### 地域おこし協力隊 SNS

地域おこし協力隊の3人が活動内容を紹介しています。「フォロー&いいね」を押して3人を応援してみませんか?



Facebook



Instagram

NEW

